

第 3 部

都市づくりの 基本理念

I めざす都市像

- ・都市づくりの基本理念とは、長期にわたり普遍性を持ち、将来に向けた都市づくりにあたり、地域の力を結集して取り組むために共有する根本となる考え方です。
- ・第3部では、都市づくりの基本理念として「めざす都市像」、「全体構想における位置づけ」、「都市構造」を整理して示します。
- ・幸区構想における「めざす都市像」は、従前の幸区構想を継承し、次のとおり定めます。

1 めざす都市像

基本的な考え方

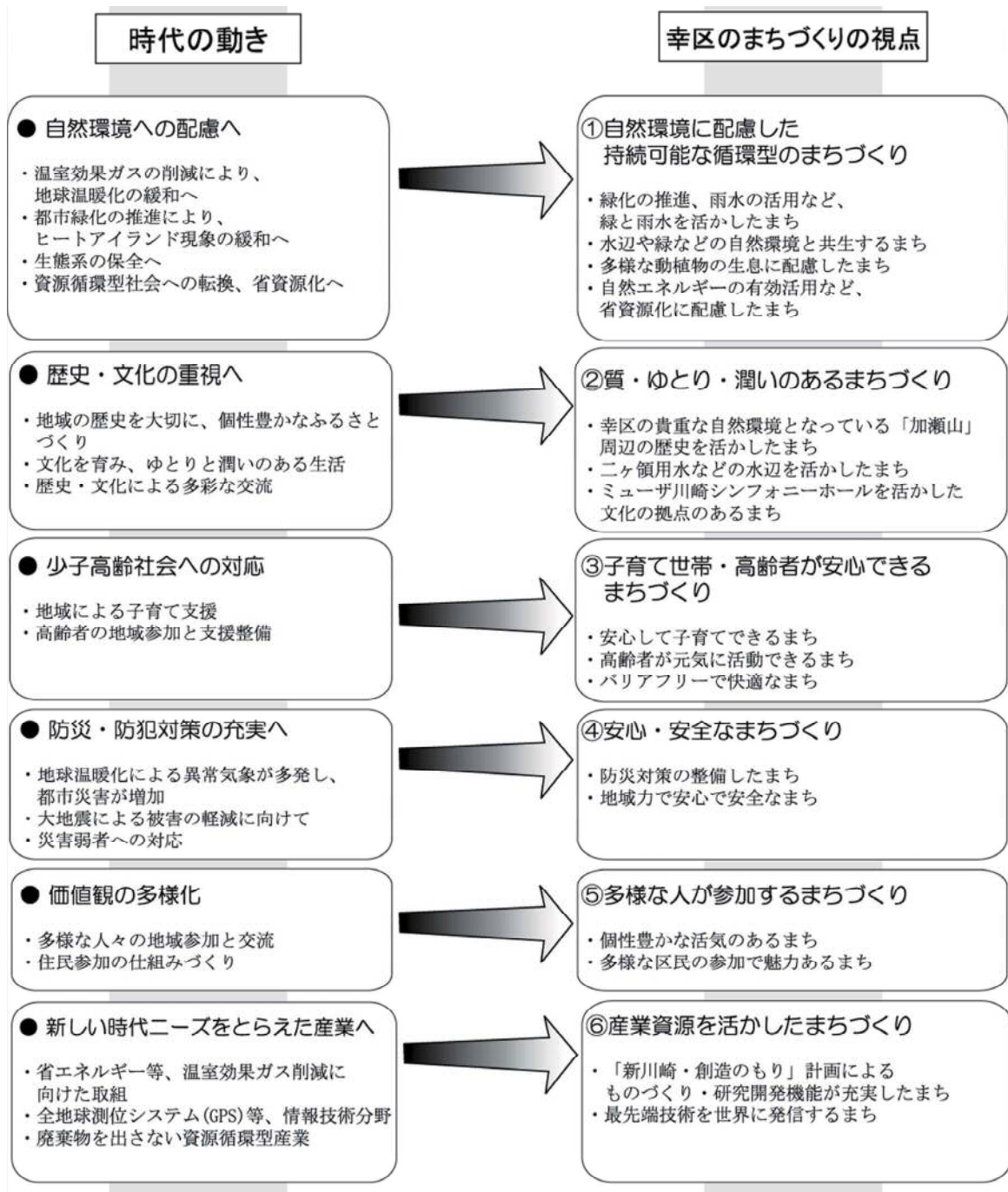
水と緑と創造のまち 生き活き・さいわい

【解説】

- ・幸区の今あるまちの構造を活かしながら、「環境」や幸区の特性を活かした「地域社会」、コミュニティを大切に「人と人」が共に生きるまちをめざします。
- ・それぞれの生活圏が、安全で安心して暮らせ、多様な交流やにぎわいがあり、新しい産業を創造する「生き活き」としたまちをめざします。

<都市像の背景・視点>

- ・幸区には、北に多摩川、南に鶴見川、西に矢上川が流れており、かつては、区内の低地部に水田が多く存在し、二ヶ領用水の豊かな水路網があり、身近に自然豊かな水辺が多くありました。
- ・近年では街なかの緑や水辺の減少、エネルギー資源の減少、地球温暖化やヒートアイランド現象などの地球環境の変化、地震や台風などによる自然災害の発生、少子高齢化の進行など、区民の生活を取り巻く環境は大きく変化してきています。
- ・これまでの歴史的経緯の中で育まれた人々の生活や産業、文化といった幸区の特性を大切にするとともに、現在のまちの課題を見据えた上で、これからの時代の動きをとらえることが大切になってきます。
- ・20年後のまちの姿を描く上で、次のように時代の動きをとらえ、まちづくりの視点を整理した上で、「環境共生のまちづくり」「安全な生き活きまちづくり」をめざします。



出典：都市計画マスタープラン幸区構想区民提案（平成17（2005）年度）

2 都市づくりの基本方針

- ・めざす都市像の実現に向けた都市づくりの基本的な考え方を「都市づくりの基本方針」として次のとおり定めます。

1 「環境と共に生きる」まちづくり

- ・多摩川などの河川や加瀬山の緑など、今ある自然環境資源を保全し、有効に活用するとともに、二ヶ領用水の水辺や公園・緑地、緑道の緑を充実させ、水と緑を育むまちをめざします。
- ・ヒートアイランド現象や地球温暖化などの地球環境問題に対して、環境に配慮した持続可能な循環型のまちをめざします。



はるか昔の幸区

2 幸区の特性を活かした「地域社会と共に生きる」まちづくり

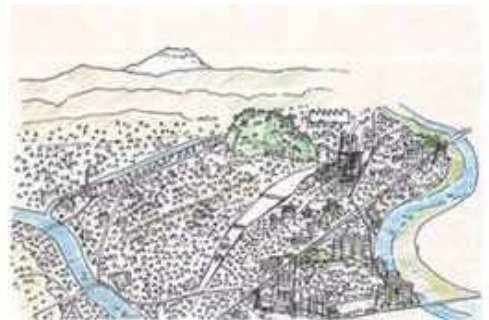
- ・縄文・弥生時代からの歴史が残る加瀬山や「音楽のまち・かわさき」の拠点施設であるミュージア川崎シンフォニーホールなどの立地を活かしたまちをめざします。
- ・地域のまちづくり活動をより活発にするため、誰もが集える生活空間があるまちをめざします。
- ・地域の中で安心して子育てができるまちをめざします。



高度成長期の幸区

3 コミュニティを大切にした「人と人が共に生きる」まちづくり

- ・少子高齢社会が進行する中で、地域の活力を向上させながら、子どもから高齢者までが気軽に集える仕組みを創出し、地区コミュニティを基盤とした、人と人が共に生きるまちをめざします。



区民提案当時の幸区

4 安全で安心して暮らせるまちづくり

- ・地区コミュニティを基盤として、まちの防災性の向上を図り、誰もが安全で安心して暮らせるまちをめざします。
- ・バリアフリーに配慮して、高齢者や障害者を始め、誰もが快適に暮らせるまちをめざします。

5 多様な交流、にぎわいのあるまちづくり

- ・地域の様々な人々の交流により、活気のあるまちをめざします。
- ・川崎駅西口地区を中心に、広域的な文化や商業、産業の拠点としての充実を図り、にぎわいのあるまちをめざします。

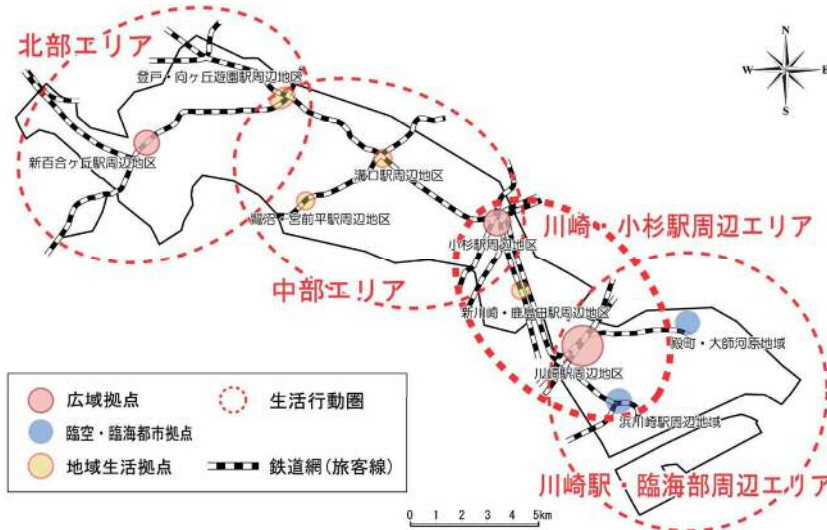
6 新しい産業を創造するまちづくり

- ・新川崎地区のK2(ケイスクエア)タウンキャンパスやKBIC(かわさき新産業創造センター)を核に、新しいものづくり・研究開発型産業を育成し、最先端技術を世界に発信するまちをめざします。

出典：都市計画マスタープラン幸区構想区民提案（平成17（2005）年度）

Ⅱ 全体構想における位置づけ

- 全体構想では、南北に長い本市の地理的な特徴、広域的に展開する市民の行動や産業経済活動、交通網の整備状況、地域の特性などから、市民の日常生活エリアである「生活行動圏」は、鉄道沿線を中心に展開していることに着目し、市域を大きく4つのエリアに分けて、それぞれのエリアのまちづくりの考え方を示しています。



- 幸区は、J R南武線・横須賀線及び東海道線沿線の地域で、「川崎・小杉駅周辺エリア」に分類されており、次のような考え方にに基づき、まちづくりを進めていくことを示しています。

(1) 広域拠点 (川崎駅周辺地区)

- 本市の中心的な「広域拠点」として、本市の玄関口としてふさわしい多様な賑わいや交流が生み出す魅力と活力にあふれた拠点の形成をめざします。
- 中枢業務機能や広域的な商業機能、文化・交流、行政等の高次な都市機能の集積を図るとともに、良質な都市型住宅の建設を適切に誘導し、計画的な複合的土地利用による都市機能の強化を図り、「商業業務エリア」の形成をめざします。

(2) 地域生活拠点 (新川崎・鹿島田駅周辺地区)

- 本市における主要な鉄道駅としての特性を活かすとともに、J R南武線立体交差化を契機として、鉄道沿線の川崎駅周辺地区及び小杉駅周辺地区等と連携し、土地利用の機動的な誘導及び市街地開発事業等の推進により、多様な都市機能や研究開発機能、良質な都市型住宅等の集積を図り、地域生活ゾーンの核となる拠点の形成をめざします。

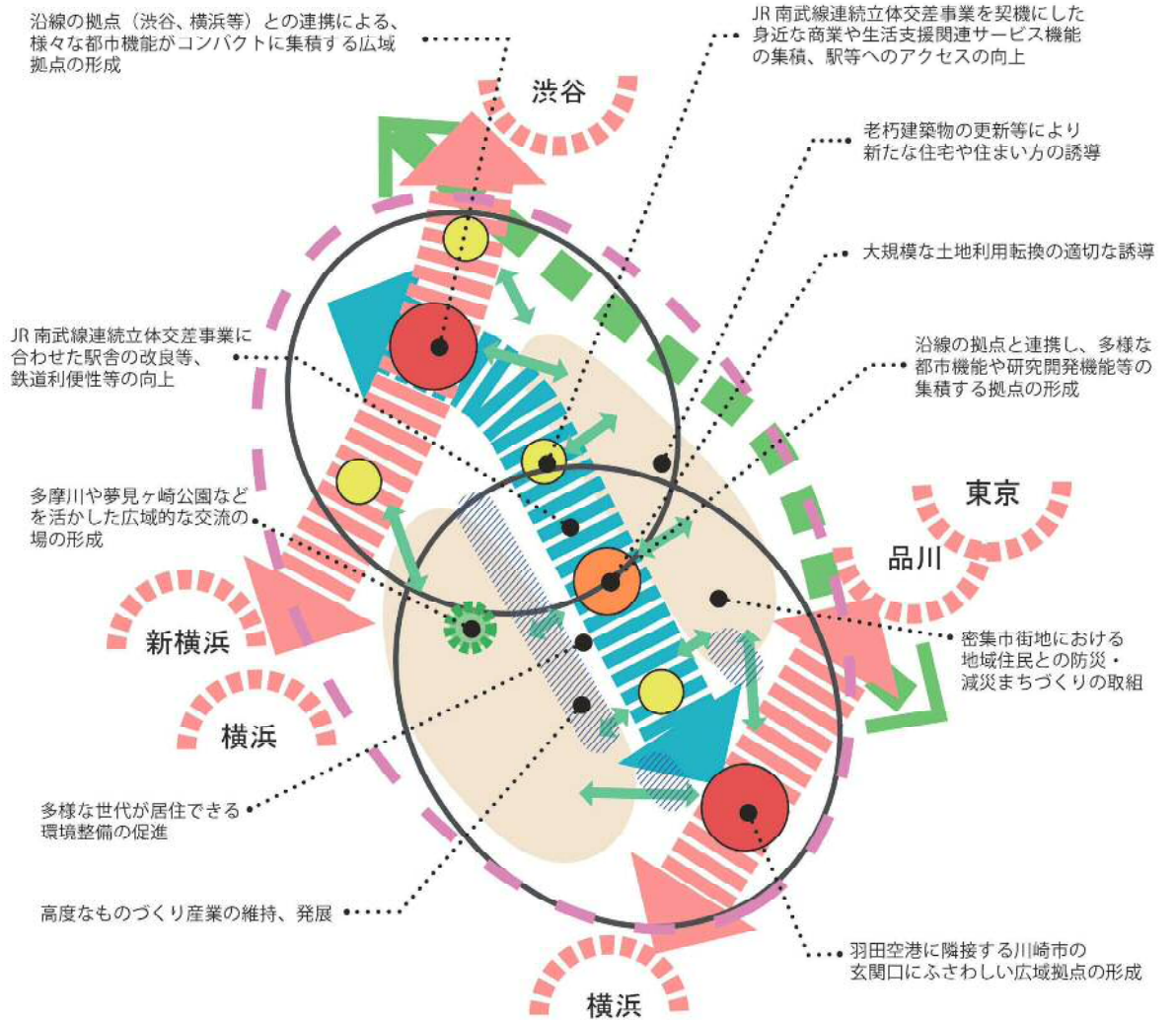
(3) 身近な駅周辺／鉄道沿線

- 鉄道沿線の拠点地区と連携しながら、機能の分担を図り、地域住民の暮らしを支える身近な商業や生活支援関連サービス機能の集積をめざします。
- J R南武線沿線の高度なものづくり産業が集積している地域特性を活かし、産業の維持、発展を支え、鉄道沿線の魅力の向上をめざします。
- 建物の更新やリニューアル等により、新たな住宅や住まい方の誘導を図り、また、鉄道駅周辺における高い利便性を活かし、多様な世代が居住できる環境整備の促進をめざします。
- J R南武線立体交差化等による、高齢者等に配慮した歩行者の移動の円滑化を図り、駅や駅周辺へのアクセスの向上をめざします。
- J R南武線立体交差化に合わせた駅舎の改良など、鉄道の快適性や利便性の向上をめざします。

(4) エリア全般

- 本エリアにおける地域特性や交通環境を考慮し、サービスの向上による公共交通の利用促進を図り、駅や駅周辺へのアクセスの向上をめざします。
- 多摩川や夢見ヶ崎公園等の地域資源を活かし、アクセスの向上や魅力の発信を通じ、広域的な交流の場の形成をめざします。
- 大規模な土地利用の更新等においては、地域特性を踏まえながら、地域課題の改善につながる土地利用転換を適切に誘導します。
- 老朽建築物の更新等により、新たな住宅や住まい方の誘導を図ります。
- 密集市街地における地域住民との防災・減災まちづくりの取組を進めます。

川崎・小杉駅周辺エリアのまちづくり概念イメージ図



凡例

| | | | | | | | |
|--|--------|--|----------------|--|---------|--|-----------|
| | 広域拠点 | | 都市軸（放射方向） | | 生活行動圏 | | 主な公園・緑地 |
| | 地域生活拠点 | | 都市軸 | | 地域生活ゾーン | | 主な産業・研究開発 |
| | 身近な駅周辺 | | 駅や駅周辺へのアクセスの向上 | | | | 多摩川 |
| | | | | | | | 平たん部居住地 |
| | | | | | | | 丘陵部居住地 |

Ⅲ 都市構造

- ・都市構造とは、都市の特徴や骨格を空間的かつ概念的に表した都市の全体像のことです。
- ・本マスタープランでは、「交通網」、「区民の行動圏」、「拠点地区」、「水と緑の骨格」、「居住地」、「近隣都市との関係」により、都市構造を示します。

1 都市構造の現状

(1) 交通網

①鉄道

- ・区内の鉄道網は、区内を縦断するJR南武線と横須賀線、放射方向に東京都心へと繋がる東海道線と京浜東北線により形成されています。

②道路

- ・東京―横浜方向に区内を横断する第二京浜（国道1号）のほか、区内を縦断する尻手黒川線、国道409号、川崎駅丸子線、多摩沿線道路などの幹線道路により、道路網が形成されています。

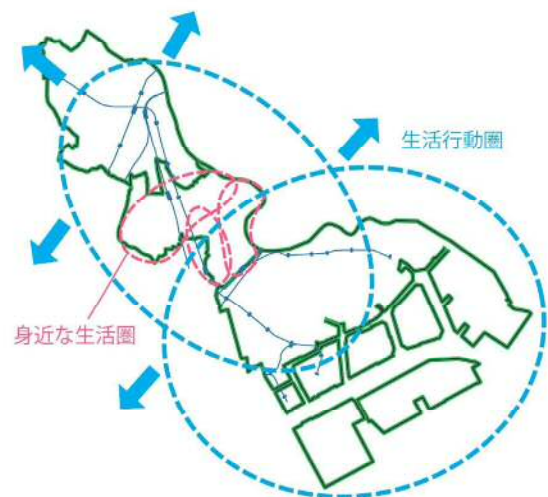
(2) 区民の行動圏

①生活行動圏

- ・広域的に展開する区民の行動や産業経済活動、交通網の整備状況、地域の特性などから、区民の日常的な生活エリアである「生活行動圏」は南武線や横須賀線、東海道線、京浜東北線を中心に展開しています。

②身近な生活圏

- ・生活行動圏の範囲内における、区民の身近な生活は、各々の居住地から身近な鉄道駅の範囲の中でおおむね行われており、鉄道駅を中心に「身近な生活圏」が形成されています。



(3) 拠点地区

- ・川崎駅周辺地区は、交通利便性が高く、商業・業務・文化機能が集積しており、小杉駅周辺地区や新百合ヶ丘駅周辺地区などと並ぶ「広域拠点」として整備が進められています。
- ・新川崎・鹿島田駅周辺地区は、多様な都市機能や研究開発機能、良質な都市型住宅などの集積を図り、溝口駅周辺地区や鷺沼・宮前平駅周辺地区などと並ぶ「地域生活拠点」として整備が進められています。

(4) 水と緑の骨格

- ・幸区は、多摩川、鶴見川、矢上川に囲まれた比較的平坦な地形からなっています。

①河川・水路

- ・本市の骨格を形成する多摩川をはじめ、鶴見川、矢上川、二ヶ領用水などの河川・水路が区内を流れています。

②公園・緑地など

- ・幸区は、さいわい緑道をはじめとした緑道が点在し、人々の憩いの場となっています。
- ・夢見ヶ崎公園が位置する加瀬山周辺や多摩川緑地と隣接する御幸公園などは、人々が自然とふれあえる空間として、公園の再整備や自然環境の保全が求められています。

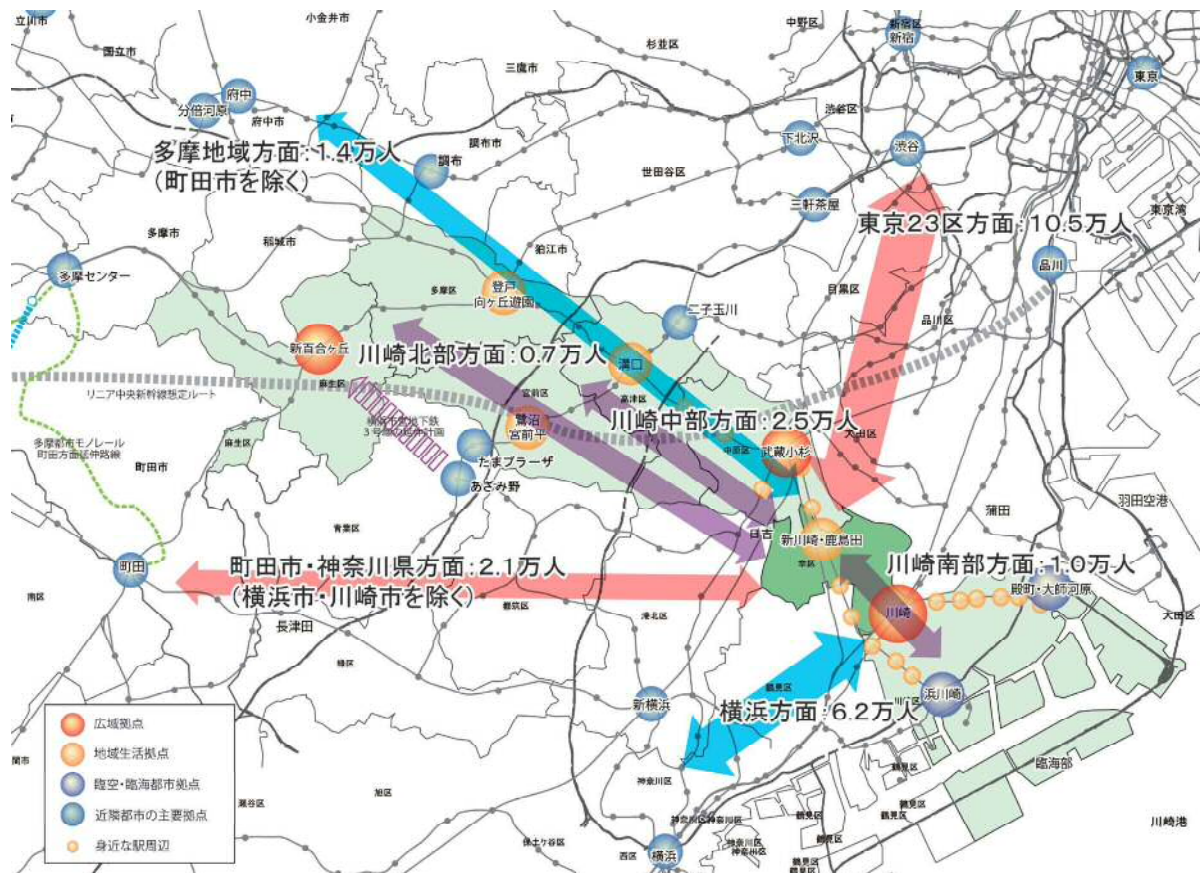
(5) 居住地

- ・戦後、工業の発展に伴い急速に市街地化が進展した経緯から、土地区画整理事業などが行われなかった地区では、狭い道路や経年した木造住宅が多く、密集市街地も存在しています。
- ・近年は、工場からの土地利用転換などにより、高層の共同住宅が多く建設され、子育て世帯が増加している一方で、高齢化が進んでいる地区もあります。

(6) 近隣都市との関係

- ・幸区は、川崎区と中原区の上に位置し、北は多摩川を境として東京都大田区に、南は横浜市鶴見区、西は横浜市港北区と接しています。
- ・首都圏の放射・環状方向の広域的な鉄道・道路網により、市民の行動は広域的に展開しています。

■広域的な都市構造に関する現状図



※図中に記載している各方面の人数は、幸区内と各方面の鉄道による移動者数を示しており、東京都市圏パーソントリップ調査（平成30（2018）年）のデータを基に、ある一日の双方向の移動者数を合計した人数です。

※それぞれの地域を発着点とする移動者を対象に、一部区間でも「鉄道・地下鉄」を利用した移動者を合計しているため、駅間の乗降人数とは異なります。

※なお、各方面の記載について、「多摩地域」は東京都港区・島しょ部と町田市を除いた東京都内、「神奈川県」は横浜市と川崎市を除いた神奈川県内、「川崎北部」は多摩区・麻生区、「川崎中部」は高津区・宮前区、「川崎南部」は川崎区・中原区を示しています。

2 めざす都市構造

(1) 広域調和・地域連携型のまちをめざします

- ・広域的な視点を踏まえた魅力ある拠点形成と各地域が自立、連携した広域調和・地域連携型の都市構造をめざします。
- ・市民の生活行動は、鉄道を主軸に近隣都市や近隣行政区に展開しているため、鉄道沿線を「都市軸」として位置づけ、鉄道を主軸に、近隣都市や身近な地域が「連携」したまちをめざします。

(2) 魅力にあふれ、個性ある都市拠点の形成をめざします

- ・川崎駅周辺地区は、本市の「広域拠点」として、中枢業務・商業・文化・行政などの高次な都市機能の集積を活かした、土地の計画的な高度利用と都市機能の更新・強化を図り、活力と魅力にあふれる拠点の形成をめざします。
- ・新川崎・鹿島田駅周辺地区は、商業・業務、都市型住宅などの機能の集積を図るとともに、基盤などの整備を進め、安全で快適な利便性の高い都市機能がコンパクトに集約し、それぞれの地域特性や個性を活かす「地域生活拠点」の形成をめざします。
- ・新川崎地区（操車場跡地）は、先端的な研究活動や産学官連携による研究開発企業の育成など、新しい産業の創造に向けて、「新川崎・創造のもり」を核としたものづくり・研究開発機能が集積した、「研究開発拠点」の形成を推進します。

(3) 生活行動圏の身近な地域が連携した住みやすく暮らしやすいまちをめざします

- ・尻手駅・矢向駅周辺では、市民の日常生活を支える身近な生活圏の拠点となる「身近な駅周辺」として、駅の特長や利用者数などに応じて、鉄道を主軸に沿線の拠点地区と都市機能を連携・分担し、地域住民の暮らしを支える身近な商業や生活支援関連サービス機能の集積など、生活利便性の向上とともに、住民の生活に密着したまちづくりをめざします。

(4) 広域調和・地域連携のまちを支える交通ネットワークの形成をめざします

- ・東京、横浜方面へのアクセス強化や沿線のまちづくりを支える鉄道路線の整備により、都市機能や拠点間連携を強化する交通網の形成をめざします。
- ・公共交通による駅や主要な公共施設へのアクセスを向上させる地域の交通環境の整備をめざします。
- ・超高齢社会の到来を見据えると同時に、都市環境への負荷低減を図るため、人と環境に優しい鉄道や路線バスなどによる持続可能な交通ネットワークの形成をめざします。また、誰もが安全・快適に利用できるよう、交通施設の環境改善に努めます。

(5) 多摩川・鶴見川水系を骨格にした、水と緑のネットワークを育みます

- ・多摩川は、「多摩川軸」として位置づけ、治水対策による安全な川づくりを促進するとともに、鶴見川・支川流域に広がる水辺空間とあわせて広大な水辺の自然空間の保全と、市民の憩いの場としての活用をめざします。
- ・二ヶ領用水は、幸区の歴史・文化資源であるとともに、生活に潤いを与える貴重な水辺空間であることから、大師堀や町田堀などの街なかの水辺と緑の空間を維持管理するとともに、緑道などを活かした水と緑のネットワークの形成をめざします。
- ・幸区は、公園の数や面積が7区の中で最も少なく、公園未設置地区の解消や市民ニーズに即した公園の再整備など、身近な憩い・交流の場の確保の視点から、より区民に身近に親しまれる公園の整備を進めます。

- ・ 夢見ヶ崎公園をはじめとした緑のオープンスペースの核となる公園・緑地を「公園緑地の拠点」に、また地域の主な公園である南河原公園を「緑の拠点」に位置づけ、水と緑のネットワークの結節拠点として、多様な機能の発揮により、緑を身近に感じられる空間の形成をめざすとともに、区内にある数少ない生産緑地についても、貴重な地域資源として保全・活用を図ります。

(6) コンパクトで効率的なまちをめざします

- ・ 少子高齢化の進展による社会的要請や今後の人口減少を見据えた地域課題に効果的に対応するとともに、地球環境に配慮した都市の形成を推進するため、コンパクトで効率的なまちをめざします。

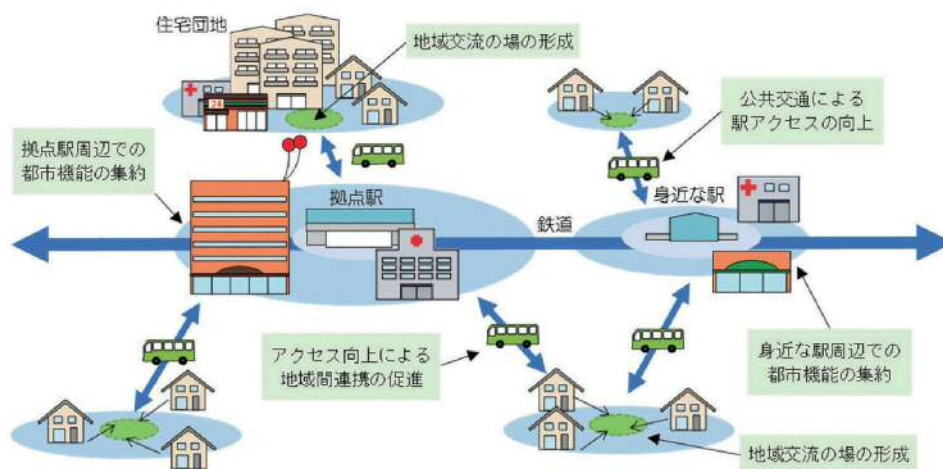
① 駅周辺における取組

- ・ 公共公益施設の更新や大規模な土地利用転換の契機を捉え、交通利便性の高い駅周辺地区などにおいては、公共公益施設や多様なニーズに対応した都市機能の集約を図るとともに、路線バスなどの公共交通による駅へのアクセス向上に向けた取組を推進します。

② 郊外部における取組

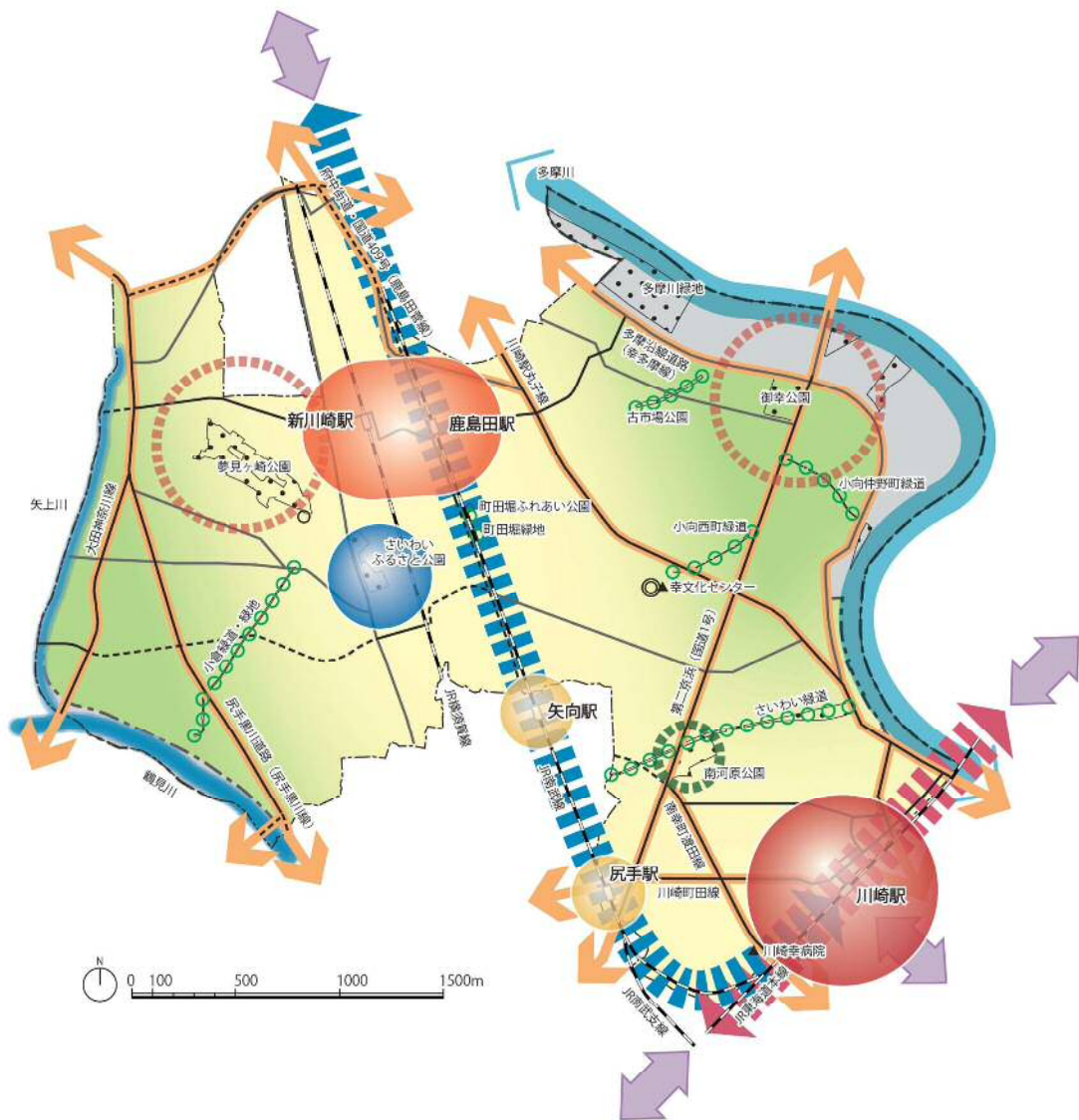
- ・ 駅から離れた地域においては、良好な居住環境を有する住宅地や住宅団地の空き家、空き室を活用し、多様な住まいや地域交流の場の形成を図り、多様な世帯の交流による地域コミュニティの活性化に取り組むなど、居住地の魅力を高めるまちづくりの取組を促進します。
- ・ 地域の人口動向や高齢化の進展を踏まえ、住宅地内において身近な商業や子育て支援などの生活支援関連サービス機能の維持・向上に資する取組を促進します。

■ コンパクトなまちづくりのイメージ図



※「コンパクトで効率的なまち」とは、駅周辺における生活に必要な都市機能の集約や住宅地における地域交流の場の形成と併せて、両者間における公共交通によるアクセス環境が整えられた、効率的で持続可能なまちのこと

都市構造図



| | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| <p>—方針—</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広域拠点 ● 地域生活拠点 ● 身近な駅周辺 ● 研究開発拠点 ● 公園緑地の拠点 ● 緑の拠点 ● 多摩川軸 ● 水の軸 | | <ul style="list-style-type: none"> ⇨ 都市軸 (放射方向) ⇨ 都市軸 — 主な幹線道路 (一般道路) ⇄ 連携 ■ 駅周辺 ■ 郊外部 | | <p>—基本凡例—</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 区役所・出張所 ■ 駅 — 都市計画道路 (完成・概成区間) - - - 都市計画道路 (事業・計画区間) — その他の主要な道路 ○ 緑道 — 河川 ■ 主な公園・緑地等 ■ 市街化調整区域 ▲ 主な施設 | |
|--|--|--|--|--|--|

平成31(2019)年3月現在

